

「明日の福祉・社会を拓く懇話会」開催へのお誘い

謹啓 気候変動の激しさを感じながらも、秋の気配に接しますと、ほのかな安らぎを覚える今日このごろでございます。平素はご無沙汰いたしておりますが、お健やかに過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、突然のことで恐縮に存じますが、このたび、私たちは、標記のような懇話会を開催したいと考えております。

少人数で、深く意見交換ができる懇話会をと願っておりますが、先生には是非ご参加頂きたいと存じまして、このようにご案内申し上げます。

なお、詳細につきましては別紙要綱、またご参加の可否につきまして、同封の用紙にてご返事くださいますようお願いいたします

謹白

平成 27 年 9 月 吉日

【呼びかけ人】

岡 田 喜 篤（北海道療育園 理事長）

中 沢 健（元厚生労働省福祉専門官・マレーシア在住）

【事務局】

加藤 孝（札幌この実会）

住田福祉（茨城尚恵学園）

蒔田明嗣（北海道療育園）

<お問合せ>

社会福祉法人 札幌この実会 第2この実寮

〒005-0832

札幌市南区北ノ沢 1904 番地

Tel 011-572-6788 fax 011-572-6750（担当：加藤 孝、中村基子）

「明日の福祉・社会を拓く懇話会」開催 趣意書

戦後に始まったわが国の障害者福祉は、措置制度の時代、社会福祉基礎構造改革、そして現在の総合支援法の時代へと変遷して参りました。

一方、私たちの社会が存在するための基本的基盤は、著しく変化し、多様化し、グローバル化しています。それらが、ある種の豊さ・便利さ・快適さをもたらしていることは確かですが、他方では、格差の増大・貧困の急増・社会不安など深刻な事態が生じています。

福祉の現状についても問題は山積しています。かつて「福祉とは、社会的弱者に対する補完的サービスである」といわれた時代がありました。今では明らかに否定されています。現在の認識では、「福祉とは、すべての人を対象に、より豊かな生活の実現を目指す個人と社会双方の営みである」とされています。したがって福祉とは、医療や教育と同様、欠くことのできない社会的インフラだと思いますが、実態は必ずしもそうではありません。

すでにみなさまも実感し、大きな憂いのなかで、日々奮闘されていることと存じますが、近年、障がいを持つ人たちの生命（いのち）やかかけがいのない生活を、数量化し、モノ化し、消費するような施策が、過去の歴史や施策について何の検証も、反省もないままに進められています。また、そうした施策を受け入れ、むしろそれを利用しながら事業を拡大し、利益を得ることが目的である事業者も多く見受けられます。

近代日本の歩みのなかで、「この国のかたち」が大きく変わろうとする時代のうねりのなか、私たちは今、ある種の「覚悟」が求められています。それは福祉においても例外ではありません。

このような思いのなか本懇話会では、少数ながら全国各地で主体的・先駆的活動を続けておられる方々に、小樽近郊の朝里温泉にお集まり頂き、食事や入浴を挟んで、深夜に至るまで熱っぽく語り合いたいと考えております。そのテーマは予め定めず、ご参加の方々の自由な提案を期待したいと存じますが、一つだけ、近々帰国を予定しておられる中沢 健さんからは、「マレーシアからみた日本の障害者福祉(仮題)」をお話し頂けるものと存じます。

急なお誘いで申し訳ありませんが、ご参加につきましてご高配賜りますようお願い申し上げます。

岡田 喜篤(北海道療育園 理事長)

中沢 健(元厚生労働省福祉専門官・マレーシア在住)